

北里大学病院・北里大学東病院(旧)を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (受付番号/承認番号)	心原性ショック合併の心筋梗塞に対する IMPELLA の有用性・安全性に関する多施設後向き登録研究 (C21-259)
当院の研究責任者 (所属・職位)	循環器内科・教授 阿古 潤哉
他の研究機関および 各施設の研究責任者	岩手医科大学 内科学講座循環器内科分野・ 准教授 石田 大
本研究の概要・背景・目的	緊急でカテーテル手術を行い閉塞している血管を再開通させる治療(早期再還流療法)が確立して以降、我が国の急性心筋梗塞の院内死亡率は約 25% から 10%以下に改善しました。しかしながら、その早期再還流療法を行ったとしても、来院時に血圧が低下した「心原性ショック」といわれる病状だった場合の死亡率はそれ以外の症例に比して非常に高い事(院内死亡率 13% vs. 0.7%)が知られています。そのため、心原性ショックを伴う急性心筋梗塞の患者さんの治療成績の改善は非常に重要と考えられます。 近年、経皮的な補助循環用ポンプカテーテルである「IMPELLA」が我が国でも導入されています。動脈と静脈に太いカテーテルを挿入して駆動する従来の経皮的な人工心肺装置(ECMO)とは異なり、大腿動脈のみからの挿入で毎分 3.7L 近い心拍出を得る事ができるため、心原性ショックの治療に非常に有効な補助循環装置と考えられています。2018 年以降に国内でも本格的導入されましたが、その有効性や治療成績については明らかになっていません。 今回、心原性ショックを伴う急性心筋梗塞に対する治療成績を IMPELLA 導入前後及び IMPELLA 使用有無で比較すること目的に研究を行います。
調査データ 該当期間	2015 年 10 月 1 日 ~ 2021 年 9 月 30 日までの情報を調査対象とします。
対象となる患者さま	心原性ショックを合併する急性心筋梗塞と診断され、入院加療を行った患者様
研究の方法 (使用する試料等)	利用する情報 2015 年 10 月 1 日 ~ 2021 年 9 月 30 日までの電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。
試料/情報の 他の研究機関への 提供 および提供方法	岩手医科大学 内科学講座循環器内科分野・ 准教授 石田 大 多施設共同研究であり、上記の他の研究機関・研究責任者へ郵送にて提供します。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究は岩手医科大学内科学講座循環器内科分野講座研究費によって行われます。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。 利益相反については北里大学利益相反委員会で審査され適切に管理されます。

お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。 また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究の対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた試料・情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 所属・職位:循環器内科・助教 担 当 者:池田 祐毅(イケダ ユウキ) 電 話: 042-778-8111
備 考	